



第42回日独スポーツ少年団同時交流受け入れ

平成27年7月29日～8月2日 能代市



ドイツスポーツユースを迎えて

能代市実行委員会 事務局 畑山 幸代

この夏、秋田県の受入として能代市が担当しました。今回、東北Iグループ（秋田、岩手、青森）として派遣されたのは、シュレスヴィヒ・ホルスタイン州の8人の若者と指導者でした。昨年、秋田県の団員が派遣されたクラブ及びホストファミリーがほとんどだったので、事前に情報交換をしながら準備を進めることができました。民泊家庭と、同年代のパートナーを探すのに苦労しましたが、最終的にとてもよい方々に引き受けていただき、日本文化を肌で感じられたプログラムが提供できたようです。

地方プログラムの最初の県だったので、東京の全体プログラムへ迎えに行き、7月29日に飛行機で秋田入り。男鹿半島や大潟村干拓地、三種町のサンドクラフトを観光しながら能代市へ到着。

歓迎式でホストファミリーと対面し、英語が堪能な家族やパートナー、翻訳機等を駆使して早くも各民泊

家庭と打ち解け和やかな雰囲気でした。

スポーツプログラムでは、地元の元スポーツ少年団員の中学生や社会人とバスケットボールやミニテニス、卓球で汗を流したり、世界遺産白神山地の麓をトレッキング、日本海での海水浴、米代川でのカヌーを体験したりしました。文化プログラムでは日本建築の見学、郷土芸能体験などができました。また、今回秋田県独特のプログラムとして、秋田県リーダー会との交流を行いました。秋田県開催の東北ブロックスポーツ少年大会と連携し、田沢湖畔サイクリングを楽しんだ後、昨年ドイツで行ったディスカッションの続編として「テーマ：私たちにできるフェアプレイ」についてお互いにプレゼンテーションをし、意見を出しあいました。東北ブロックスポーツ少年大会参加の中高生も参加し、ジェスチャーを交えた活発な意見が出されました。

各民泊家庭では郷土料理作りやショッピング、焼肉、書道、折り紙、ラジオ体操など、普段着の秋田を満喫したようです。

さよならパーティーでは、各家庭の手料理や地元で人気のメニューなど素朴な食材を用意、郷土芸能やゲーム、歌などで最後の夜を楽しんでもらいました。

8月2日の出発式では、どの家庭も名残惜しくなかな別れることができませんでしたが、「この後の二つの県でも楽しんで」と送り出しました。

多くの皆様のお力添えのお陰で、両国にとって有意義な交流ができたのではないかと感謝しております。この交流の文化が、次の世代にも引き継がれることを期待しています。



○日独スポーツ少年団同時交流受入 日程表

7月29日(水)：秋田到着(秋田空港)、男鹿半島寒風山～大瀧村干拓地～サンドクラフト(三種町)、歓迎式(二ツ井町庁舎)、スポーツ交流(バスケットボール、ミニテニス)

7月30日(木)：ローカル線体験・たんぼアート(秋田内陸縦貫鉄道)、田沢湖遊覧船、田沢湖畔サイクリング、ディスカッション(兼東北ブロックスポーツ少年大会)

7月31日(金)：白神山トレッキング(八峰町留山)、海水浴、「天空の不夜城」見学、日本建築「旧料亭金勇」見学、スポーツ(ミニテニス、卓球)、郷土芸能(仁鮎ささら)

8月1日(土)：きみまち散策、カヌー(米代川)、民泊家庭プログラム、さよならパーティー(二ツ井町庁舎)

8月2日(日)：出発式(二ツ井町庁舎前)～岩手県紫波町へ引き継ぎ(鹿角市)

○受入概要

- ・ドイツユーゲント：団員8名、指導者1名、通訳1名
- ・民泊家庭(ホストファミリー)：4家庭
- ・日本側パートナー(一緒に活動する青少年)：5名
- ・受入体制：能代市実行委員会

民泊家庭(ホストファミリー)の感想

「ホームステイを終えて」吉岡 明美

宿泊者：シュテフェン・トムセン、シュテファン・ナビラータ、ヤネス・ギック



歓迎式の時に、我が家に宿泊する3人は笑顔で挨拶、緊張が一気にほぐれました。彼らはゆっくり話しかけてくれて、家族のことや地元のことなど写真や地図も交えて一生懸命話してくれたのが印象的でした。食事は、純和風が苦手だったり暑さで食欲が落ちたりしないかと、和洋折衷に。一番人気は「カツカレー」で、おかわりしていました。宿泊する部屋は日本での体験と考え、3人いっしょの座敷(和室)を用意、身長180cmを越える子たちは鴨居に頭をぶつけていたようです…。

小学生の「夏休みのラジオ体操」では、彼らが小学生にドイツのお菓子をプレゼントしたところ、「英語のお兄さん」と話題になっていたようです。でも早起きはつらかったようで、後半はゆっくり寝てもらうことにしました。

ファミリーデーは、二ツ井を記憶に留めてもらえたらと思い、カヌー体験を提案。昼食は町内のラーメン屋さん、スーパーマーケット散策や银杏神社、日本一

高い杉の見学にも行きました。

さよならパーティーの後、我が家では帰省した親族総勢12人の大所帯でのパーティーでした。ヤネスが手品やピアノ演奏を披露、最後の晩は賑やかに、楽しく、感動的に過ぎていきました。

皆礼儀正しく笑顔が素敵な青年たち、短い期間でしたが、彼らと出会えて大変楽しく幸せな時間を過ごすことができました。このような機会をいただき、担当の皆様方に御礼申し上げます。そして本当にお疲れ様でした。

「心を繋いだ kranich～鶴～」米川 佳奈子

宿泊者：ハナ・レナー、エファ・レナー、リュディア・クアベック

ユーゲント民泊家庭を引き受けてからその日が来るまで、不安もありましたが楽しみの方が強かったように思います。我が家に来てくれたのは、女の子で最年少17歳のハナ、お姉さん



のエファ、背の高いリュディアの3人娘。皆、笑顔が素敵でとてもフレンドリーでした。彼女たちから頂いたアルバムには、家族や住んでいる街並みの写真がメッセージつきで整理されていて、彼女たちの文化に触れる何よりのプレゼントでした。

初日、一緒に「だまっこ鍋」をつくりました。フォークとスプーンを使っただけの食事風景には異文化を実感しました。箸の文化圏では、箸しか使わないと思っていたようで、ご飯は箸、デザートはフォークを使う娘やパートナーの様子を不思議がられました。箸を使えなかった彼女たちですが、スーパーでお茶碗と箸を購入、今頃使っているかなあとを馳せています。

彼女たちとの会話はもっぱら英語で、娘に助けられました。私も片言の英語でどうにかコミュニケーションを図ることができました。挨拶以外で覚えたドイツ語は、Kranich(クラーニヒ)鶴です。折り鶴の折り方を真剣に習っていました。糸で繋いだ折り鶴が、今頃ドイツの空の下で揺れていることでしょう。5日間



の素敵な時間を頂き、心から感謝しています。ありがとうございました。

パートナーの感想

「思い出と約束」

パートナー 金野 純 (秋田県リーダー会)



今回の日独同時交流は、普段交流することのない年齢に近い外国の人たちと出会えて、とても良い刺激になりました。慣れない英語でのコミュニケーションではうまくいかないところもありましたが、お互いが相手の話を理解しようと努力していて、自分でも驚くほどコミュニケーションが図れていたと思います。また、これまでの県リーダー会の活動やシニアリーダースクールでの経験も、様々なプログラムの中で生かされたのではないかと考えています。

今回一番思い出に残ったのはカヌー体験で、カヌーの漕ぎ方などに文化の違いを感じました。また、焼肉や100円ショップも、彼らと行くと、いつもとは違って見え、とても新鮮でした。

今回の思い出は、この先様々な場面で生きてくると思います。また、次は私がドイツへ行くと約束したので、その約束を果たし自分の見聞を広めてきたいです。



「1年ぶりの再会と成長」

パートナー 畑山 朗葉 (秋田県リーダー会)

今年の受け入れは、私が昨年ドイツで出会った仲間が秋田に来るということで、再会を非常に楽しみにしていた。ドイツのみんなは相変わらず元気で、どこか大人になったような雰囲気嬉しく感じた。

今回印象に残っていることは、秋田県リーダー会の一員としてディスカッションの準備や発表・意見交換

したことである。昨年、ドイツで体験したテーマだったので、事前に意見の取りまとめや企画を行った。言葉の壁や、本番でどのような意見交換になるのかなど心配していたが、みんな非常に和やかでかつ真剣にお互いの考えを出し共有する



ことができ、昨年よりも内容が濃く更に前進した話し合いになった。ドイツ側のプレゼンは、日常での事例を寸劇で見せたり出席者参加のクイズ形式で賛否を聞いたりする内容もあり、東北ブロックスポーツ少年大会参加の中学生にも解りやすく、学ぶことが多かった。これからのスポーツ少年団やリーダー会の活動に活かしたいと思った。さらにディスカッションのまとめに、日独共通のフェアプレイのジェスチャーを考案できたのもよかった。

プログラム全体では、ユージェントが楽しんでいるようで嬉しかった。事前研修などで伝えた自分の経験や情報が活かされていれば幸いだ。残念だったのは、自分の学校行事と受け入れ日程が重なり全日程に参加できず、交流する機会が少なくなってしまったことである。今度は、再度海を渡り私からドイツの仲間と会いに行きたい。



日独スポーツ少年団同時交流とは

○趣旨：日独両国のスポーツ少年団の優れた青少年および指導者の相互交流により友好と親善を深め、国際的能力を高めると共に、両国の青少年スポーツの発展を目指す。

○概要：各国125名が互いに相手国を訪問し、グループに分かれて各地でホームステイし、スポーツ交流や視察研修等を実施。1974年以来毎年実施。

○期日：7月下旬～8月中旬 約18日間

○グループ：秋田県は東北I（青森、秋田、岩手）として受入れ、派遣。日本での受入は各県1市町村に滞在。

○対象：受入～ドイツスポーツユージェント（16歳～21歳）と指導者1名、計約10名。派遣～登録団員（16歳～22歳※H28は24歳）でシニアリーダーまたは同等の経験者等、北東北から計10名程度、指導者（65歳以下認定員等）1名。毎年、前年の12月に県本部へ申請し選考される。

日本スポーツ少年団HP「国際交流」参照、詳しくは県スポーツ少年団へ）018-866-3916

『スポーツを通じ 国際人として成長しよう！』

※秋田県リーダー会

市町村単位団に所属する県内の高校生以上の団員（25歳まで）で組織。団の運営や交流大会等の指導方法について研修している。

主な事業：総会、研修会、交流の集い、秋田県スポーツ少年大会運営、全国・東北リーダー研修会等への参加、日独交流への参加等。

第29回秋田県スポーツ少年団指導者研究協議会(兼)第42回認定員等再研修会

平成27年11月1日(日) 秋田市 秋田県青少年交流センター「ユースパル」

第29回秋田県スポーツ少年団指導者研究協議会(兼)第42回認定員等再研修会が11月1日(日)に、秋田市の秋田県青少年交流センター「ユースパル」で行われました。例年は講演、研究協議を主な内容としていますが、今回は一般社団法人日本トップリーグ連携機構の協賛事業として、「ボールであそぼう」をテーマに、講義と実技を行いました。これはあらゆる球技スポーツの入門期に最適な指導プログラムで、元トップアスリートが指導に当たります。

午前中、田中禎則氏(一般社団法人日本トップリーグ機構事務局長)より「ジュニア期のスポーツの考え方」について講義があり、幼少期の多様な運動経験が将来に重要な影響を及ぼすことなどを学びました。

午後はアトランタオリンピック出場の岩屋睦子氏と、アジアバスケットとボール選手権出場の小畑亜章子氏による実技講習を行いました。敏捷性や瞬発力、判断力を養うゲーム性に富んだ内容を実施し、ボールを使

ったゲームのほか、じゃんけんを取り入れたものや鬼ごっこ形式のゲームなど、参加者一同笑いが溢れる中熱心に取り組みました。現場ですぐに活かせる内容が多く、指導のバリエーション拡大につながったようです。

参加数：認定員等50名



第43回認定員等再研修会(県北会場)

とき 平成27年11月14日(土)

ところ 藤里町交流センター 参加者73名

県北会場として、今年度は藤里町で行いました。この研修は能代市山本郡スポーツ少年団連絡協議会の平成27年度研修会を兼ねます。

スポーツ現場や家庭でのコミュニケーションスキルの向上を目指し、「やる気を引き出す励ましの言葉」ペップトークを学びました。講師は日本ペップトーク協会の公認指導者安真紀氏で、自身の経験談や具体的な声かけの例について演習も交えながら理解を深めました。



第44回認定員等再研会(県南会場)

とき 平成27年11月29日(日)

ところ 湯沢雄勝広域交流センター 参加者55名

「一貫指導の根底にあるものとは」と題して、(株)ブラウブリッツ秋田の指導者とトレーナーのお二人から、成長期の子どもたちに必要な食事や睡眠、トレーニングの方法など専門的な立場からお話しをしていただきました。日ごろ、子どもたちと接している指導者・保護者にとって学ぶことの多い貴重な時間になりました。

また「暴力根絶」については、「ドキッ」とするような内容もあり、それぞれの立場で今後の活動を見直す良い機会になったと思います。



第38回競技別交流大会



9/26・27 大潟村ラグビー場 9団 303名



1/4~6 CNAアリーナ☆あきた県立体育館 55団 1,100名



12/5 秋田県立体育館 30団 469名



1/30・31 矢島スキー場 113名



2/13・14 田沢湖スキー場 189名



3/5・6 花輪スキー場 14名



お弁当の配達承ります。

会議、研修会、各種スポーツ等

630円より様々な種類のお弁当をご用意しております。

※配達は10個からとさせていただきます。

歓迎会、送別会

(ご予算に応じて承ります。)



青少年交流センター
有限会社 県庁食堂

レストランユースパル

秋田市寺内神屋敷3-1
TEL. 018-880-2310
FAX. 018-880-2319



目指せ世界の頂点!



がんばる
ジュニア
応援します



あらゆるニーズにお応えする

松原印刷社

〒010-0951 秋田市山王七丁目5-29
TEL 018-862-8760(代)
FAX 018-863-0005
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>
E-mail:matsubara@matsubarainsatsu.co.jp

「チームの成長」

FC Rossora 磐山スポーツ少年団 6年 鈴木 潤

ぼくらのチームは、平成26年5月に設立で、結成当初は10名でスタートしました。今年から18名になりました。結成当初は、サッカーと言うよりボールばかりを追いかけていて、これで試合に出れるのか心配だった。でも監督、コーチの指導により少しずつ慣れてきて、皆で声を出しコーチングもでき自分達の体力を減らさず試合をするようになった。結成1年目にして個性が成長しいいチームになり、初めて出場した魁星旗では予選2位通過をした。決勝トーナメント1回戦敗退という悔しい結果だったが自分達の中では予選突破を目標にこの1年チームとして練習してきた成果だと思う。結成してまた強いチームですがこれからのチームの成長に期待して下さい。



「最高の思い出を!!」

高川スポーツ少年団 5年 今井 真心

私達のチームは、2年生が1人、3年生が3人、4年生が2人、5年生が5人の計11人で、低学年が多く、少人数ですが、みんなで声を掛け合いながら、がんばっています。ですが、残念な事に私達の学校は、今年度で閉校となるため、このチームでの活動も残すところあとわずかです。なかなか勝つ事ができず、いつも悔しい思いばかりですが、コーチは私達に、家族の様に扱ってくれ楽しいバスケを教えてくださいます。お父さん、お母さん達は、優しくサポートし、励ましてくれます。

私達の活動を応援してくれる、全ての人の感謝の気持ちを忘れずに、1つ1つの試合に対し、後悔のないプレーをし、最高の仲間と、最高の思い出を作りたいです。



汚れ

消しゴムの汚れが目立たず、キレイに使えます。

消しゴム モノ PE01 ブラック 63円 (本体価格 60円)



汚れに強いブラックボディ



消し
クズ

紙面上の消しクズが見やすく、処理が容易です。

消しゴム モノ PE04 ブラック 105円 (本体価格 100円)

MONO

株式会社トンボ鉛筆
http://www.tombow.com

あちらこちら

ぼくの剣道

田沢湖志成館道場 6年 三浦 斗椰

ぼくは、1年生から剣道をやりました。どんどん学年が上が、ていくたびに厳しい稽古を重ねて、団体戦で優勝する事が出来ました。ぼくが、心がけている事は礼儀です。礼儀は剣道でも最も大事な事だと先生が教えてくれました。だから試合で負けて悔しい時も礼儀を忘れない事を心掛けています。

「諦めたらそこで試合は終わってしまう。諦めないからこそ夢は叶う。」など「剣道は勝ちにこだわらない。その試合に納得できたかどうか重要だ」と、先生からたくさんのお言葉や支えがあ、てここまでこれたと思います。中学校にいても、今まで教わ、たことを忘れずにこれからの稽古にいかして行きたいです。



継続はかなり

井川卓球スポーツ少年団 6年 半田 るみ

全県大会優勝。そのカギとな、たのは練習を継続したことだと思います。始めは、週二・三回の練習をただの練習としてとり組んでいました。なので、大会に出ても思うような結果が残せませんでした。しかし、十月になり私たちにとって最後の大会になる、全県大会が十二月にあることを知りました。そして、コーチから「みんなはこの大会で何を目指すのか」と聞いてきました。チームで話し、た結果、「団体戦優勝」に決まりました。決ま、てから、大会までの2ヶ月間チームの練習以外にも毎日、自主練習をはじめました。それが実を結び、目標の優勝をすることができました。このことから継続することの大切さを知りました。これからも、「継続」を心がけていきたいです。



INEX

株式会社 アイネックス



パソコン専門店 COM

<http://www.inecx.co.jp>

本社	〒010-0063	秋田市牛島西一丁目4-5	TEL 018-887-5560	FAX 018-835-5666
建築事業部	〒010-0063	秋田市牛島西一丁目4-5	TEL 018-836-0330	FAX 018-836-0331
ITサポート事業部	〒010-0041	秋田市広面字鍋沼37	TEL 018-831-3131	FAX 018-831-2211
能代営業所	〒016-0852	能代市出戸本町14-35	TEL 0185-55-3780	FAX 0185-55-3750
大仙営業所	〒014-0047	大仙市大曲須和町2-2-20	TEL 0187-62-6630	FAX 0187-62-6610

夢を支える応援団

スポーツ少年団を支える指導者・育成母集団の声

「主役を支えるために」

藤里クラブ女子ミニバスケットボール部

指導者 田中裕也

藤里クラブ女子ミニバスケットボール部は、3年生から6年生23名で活動しています。私自身もミニバスケットボールに14年間携わってきました。

普段の練習では、あいさつや団体競技の心得も大事なことだと思い、保護者の方々からの協力を得ながら指導してきました。私自身としては勝利至上主義にとらわれたバスケットではなく正しく基本をしっかり身につけたバスケットを目指し、一回の攻撃で出場している選手がみんなボールに触れシュートまで持っているような指導をしています。こうしたことが今後のバスケットボールの技術の向上につながるのだと信じています。

これからも主役である団員がスポ少活動の中で輝けるようにまたバスケットボールのど真ん中を貫き通せるように保護者、地域の方々の協力に感謝しながら精一杯支えていきたいと思っています。



「なせばなる、夢を支え続けて23年間」

鹿角ジャンプスポーツ少年団

顧問 澁谷久夫

スキージャンプの普及・発展、青少年の健全育成を目的に、平成5年に設立以来23年を経過する。

種目の特性から登録者は小中学生168名と多くはない。しかし、活動の場に掲げてきた団旗には、“より高く、より遠く、より速く”、“飛び出せ世界のひのき舞台へ”の夢とするスローガンを刻し、卒団生OBには、オリンピックやワールドカップ日本代表となった選手として成長した者が少なくない。

鹿角市花輪には、ジュニア選手育成としては日本一の施設があり、市のスポーツ振興施策の第一に、“スキーのまちづくり”を掲げ、専門のジュニア選手強化指導員を赴任させ、後追してくれていて心強い。

結果、着実に成果があり、小中高生のトップは全日本スキー連盟ジュニア強化選手に指定され、前途に期待されること大であり、現実の問題として、入団を志す小中生の少数という難関をクリアしつつ、夢と現実の解け合いに、

“なせばなる”を信念に牛歩の昨今である。



スポーツ安全保険

スポーツ安全協会 検索 インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

公益財団法人 スポーツ安全協会 秋田県支部
 (公財)秋田県体育協会内

〒010-0974 秋田市八橋運動公園 1-5 秋田県スポーツ科学センター内

TEL018-883-0360

電話受付時間：午前8時30分～午後5時(土、日、祝日を除く。)

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

<http://www.sportsanzen.org>

●資料請求は、インターネットより受付しております。



携帯電話から資料請求ができます。



誠くん

スポーツ活動以外の団体も加入できます。



千春ちゃん